

鵜住居地区住民説明会
(地権者連絡会・復興まちづくり協議会)

平成25年11月3日(日)
18:30 ~ 20:30

次 第

1. 挨拶

鵜住居地区復興まちづくり協議会 会長代行 佐々木憲一郎

鵜住居地区地権者連絡会 会長 古川愛明

釜石市長 野田武則

2. 復興事業の進捗状況について

3. 住宅再建意向調査の中間集計結果について

4. 公共施設の配置計画について

(1) メモリアルパーク整備に係る検討状況について

(2) 駅前交流拠点の検討状況について

(3) スポーツ施設整備に係る検討状況について

(4) JR山田線の復旧について

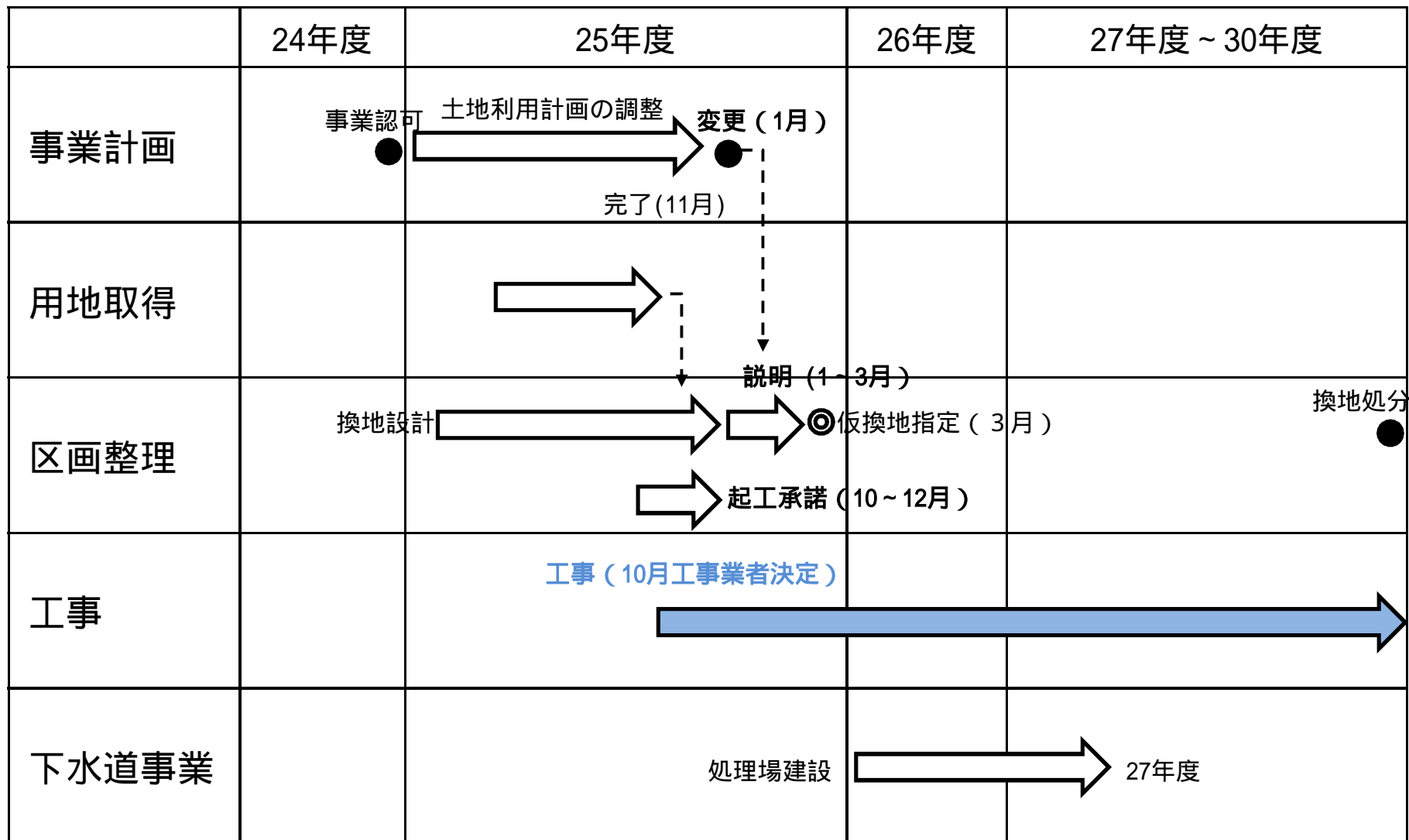
(5) 五葉寮跡地の土地利用について

5. 釜石片岸・鵜住居地区震災復興事業安全祈願祭について

6. 質疑・意見交換

2. 復興事業の進捗状況について

スケジュール



3. 住宅再建意向調査の中間集計結果について

4 . 公共施設の配置計画について

鵜住居地区

復興まちづくり事業

安全・安心の確保

- ・都市基盤整備と街区の再編、防潮堤の復旧、水門の整備、地盤の嵩上げ、公共下水道
- ・市道鵜住居2号線の整備、路線バス・デマンドバスの計画的運行、JR山田線の復旧
- ・被災した障がい者施設の復旧支援、地域ネットワークの構築

公共施設の整備

- ・災害復興公営住宅の整備
- ・小中学校、幼稚園、児童館、津波防災まちづくり拠点、災害時の拠点、津波避難場所の整備、備蓄倉庫の設置、消防屯所等消防施設、集会施設・生活応援センターの整備

産業の再生

- ・震災復興事業用地への産業の誘致、栗橋から箱崎半島全体のにぎわい交流拠点・商業拠点の整備、農業の再生

スポーツの振興・震災メモリアルの検討

- ・スポーツレクリエーション拠点整備、震災メモリアルパーク整備

4-(1) メモリアルパーク整備に係る検討状況について

釜石市震災メモリアルパークの整備について

1、釜石市震災メモリアルパーク整備に向けた検討状況

釜石市震災メモリアルパーク整備検討委員会の設置 (平成24年12月5日)

委員構成(21名)：

被災4地域会議、遺族連絡会、防災関係

まちづくり団体、学校、PTA関係、観光ボランティア関係

女性団体、スポーツ関係、都市計画審議会関係、学識経験者、一般公募



《これまでの経過》

1) 整備検討委員会開催 4回

【H24.12月、25.3月、7月、10月】

2) 先進事例の視察：新潟県中越メモリアル回廊

【H25.9月】

3) 委員によるワークショップ開催 【H25.10月】



釜石市震災メモリアルパークの整備について

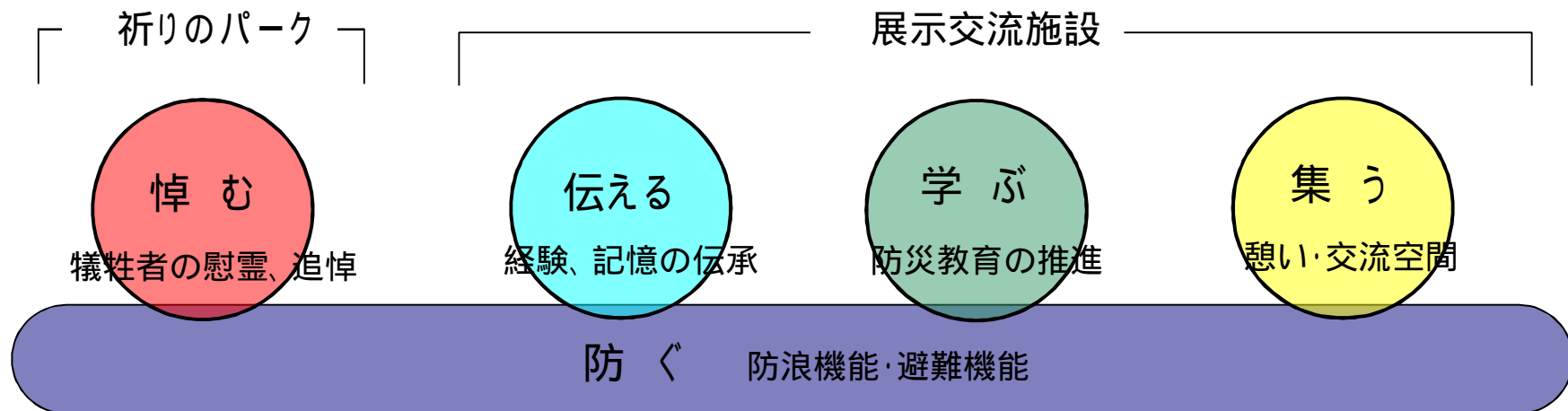
2、釜石市震災メモリアルパーク施設の機能

悼む、伝える、学ぶ、集う、防ぐ、の5つの機能を、
『祈りのパーク』、『展示交流施設』を通じて具体化するもの。



《整備に向けた整備検討委員会での検討状況》

祈りのパーク / 慰霊碑、広場など。鵜住居地区などをメインに。早めの時期に設置を。
展示交流施設 / 今後整備される公共施設等との併設も検討。
具体的な施設の内容、場所、設置時期については引き続き検討委員会で検討を重ねる。



釜石市震災メモリアルパークの整備について

3、今後の予定

- 1) 整備検討委員会の開催
- 2) シンポジウムの開催
日時：平成25年12月21日（土）、13時30分～
会場：釜石・大槌地域産業育成センター
- 3) 意見募集（パブリックコメント）の実施
- 4) 総合振興審議会や地域会議、まちづくり協議会などで説明
- 5) 広報かまいし、復興釜石新聞などでの市民への周知
これらを経て、
今年度中に基本構想として取りまとめる予定。

シンポジウム
震災から 20 年
奥尻からのメッセージ

釜石市では、東日本大震災犠牲者の追悼・鎮魂、震災の経験・記憶・教訓を後世に伝え、防災意識・文化を継承・発信するため、震災メモリアルパーク整備の基本構想について検討を重ねています。この取り組みの一環として、過去の震災とその復興に学ぶことを目的としたシンポジウムを開催します。

平成 5 年 7 月 12 日の北海道南西沖地震とそれに続く津波によって、奥尻島は甚大な被害を受けました。復興では、津波により多くの被害を被ったことへの対策として、防潮堤や津波水門、人工地盤、避難路などの防災対策が行われました。そして、震災発生から 5 年後の平成 10 年 3 月には「完全復興宣言」に至りました。そして今、東日本大震災からの復興が加速していくなかで、改めて奥尻島の取り組みが注目されています。

海に生まれ、水産や観光が主産業であること、津波による被害が大きかったことなど、奥尻島と三陸地方とは、多くの類似した側面を持っています。そこで、このシンポジウムでは、震災から 20 年を経た奥尻島における震災復興の軌跡と今日の課題や取り組みをテーマに、今後の釜石市の復興と、その中で震災メモリアルパークのあり方を展望していきたいと考えます。

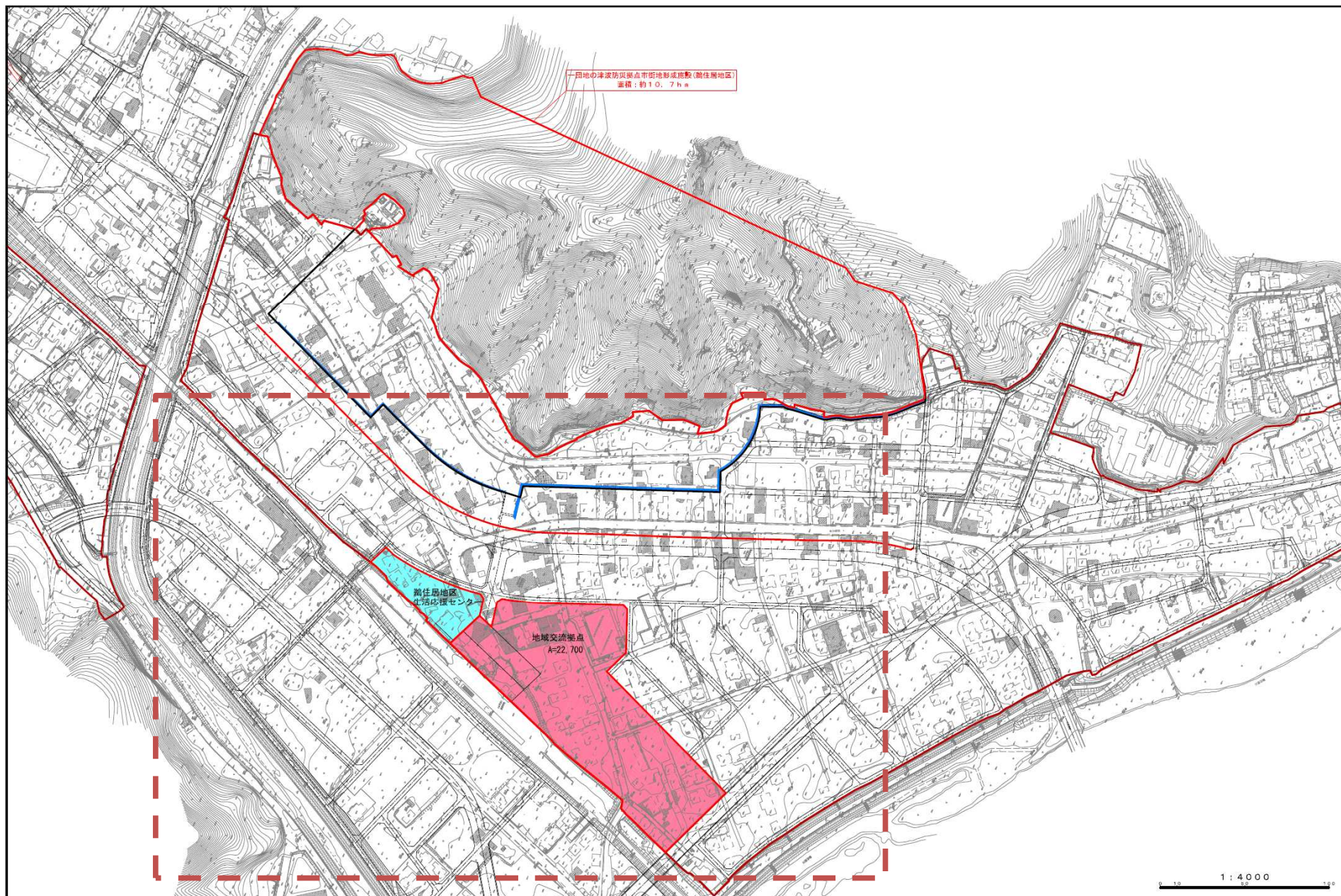
進行プログラム（予定）
開場 13:00
開会 13:30 ごあいさつ、趣旨説明等。
第一部：基調講演 13:40～14:40
被災後 20 年を振り返って、奥尻島の課題と取り組み
【講師】佐野由裕氏（奥尻島観光協会主任）
奥尻島の 20 年間の復興プロセスを振り返るとともに、過疎化や高齢化など今日のまちづくりの課題や将来へ向けての取り組みについての講演です。
第二部：パネルディスカッション 15:00～16:30
【コーディネーター】木村拓郎氏（一般社団法人 減災・復興支援機構理事長 3.11 震災伝承研究会 会長）
【パネリスト】
佐野由裕氏（奥尻島観光協会主任）
上村靖司氏（長岡技術科学大学 准教授 日本災害復興学会 理事）
佐々木寿氏（釜石市郷土資料館 館長）
柏館智晴氏（釜石市都市計画審議会 会長 震災メモリアルパーク整備検討委員会 委員長）
釜石は、今後、どんな復興の街づくりをめざしていくのか、その中で震災メモリアルパークは、どんな役割をはたすべきなのかという二つの視点から、議論を深めていきます。

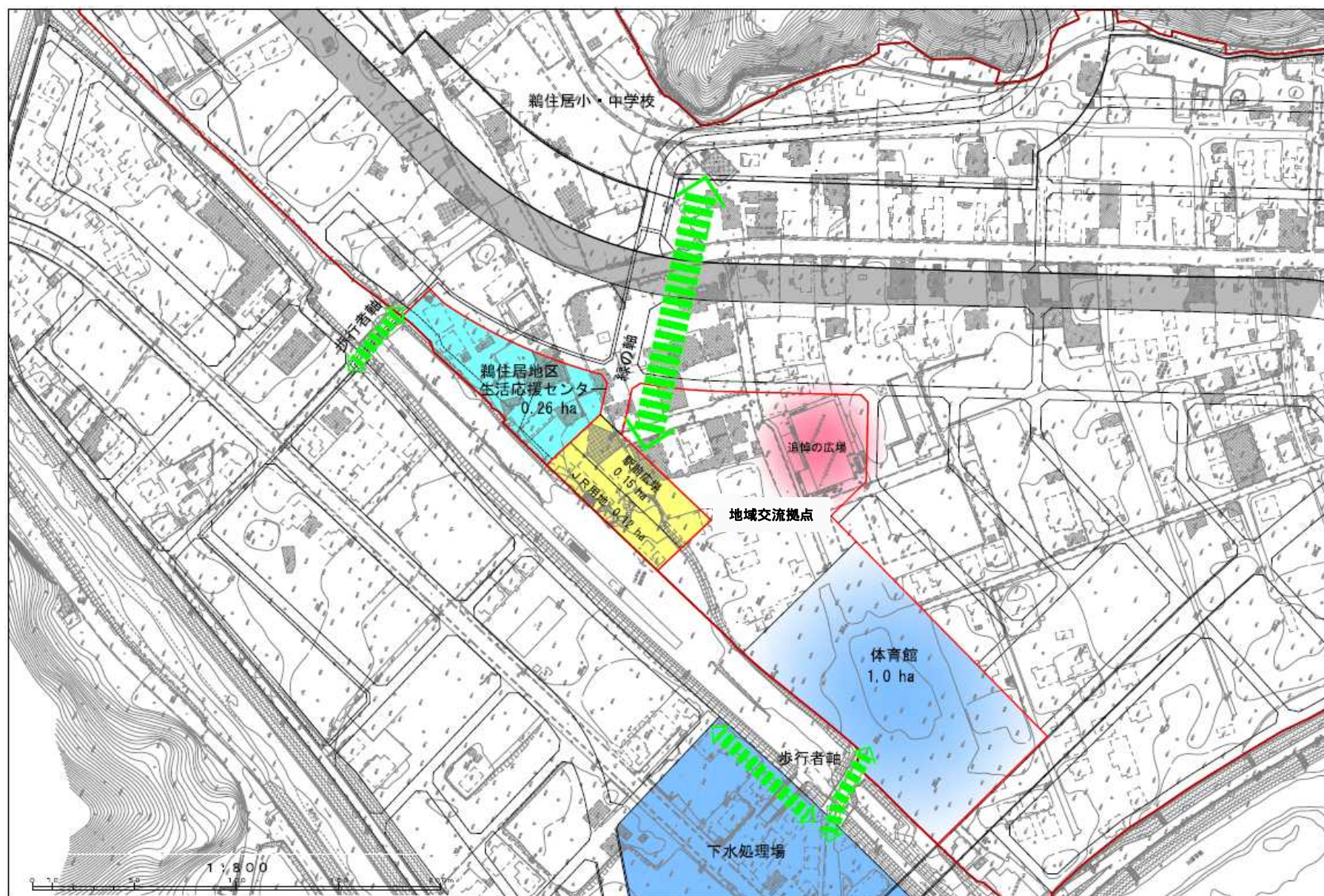
2013. **12.21** (土) 13:30～
釜石・大槌地域産業育成センター
参加費：無料（釜石市民をはじめ、どなたでも参加できます）
定員：100 名（定員になり次第、締切らせて頂きます）

■参加申込み方法
12 月 18 日迄に、釜石市総合政策課宛、電話またはメール（お名前、ご住所、ご所属、参加人数等をご記入下さい。にてお申込み下さい。）
釜石市総合政策課
TEL：0193-22-2111（内線 132）
E-mail：sougou@city.kamaishi.wate.jp

主催：釜石市 協力：一般社団法人 減災・復興支援機構

4 -(2) 駅前交流拠点の検討状況について





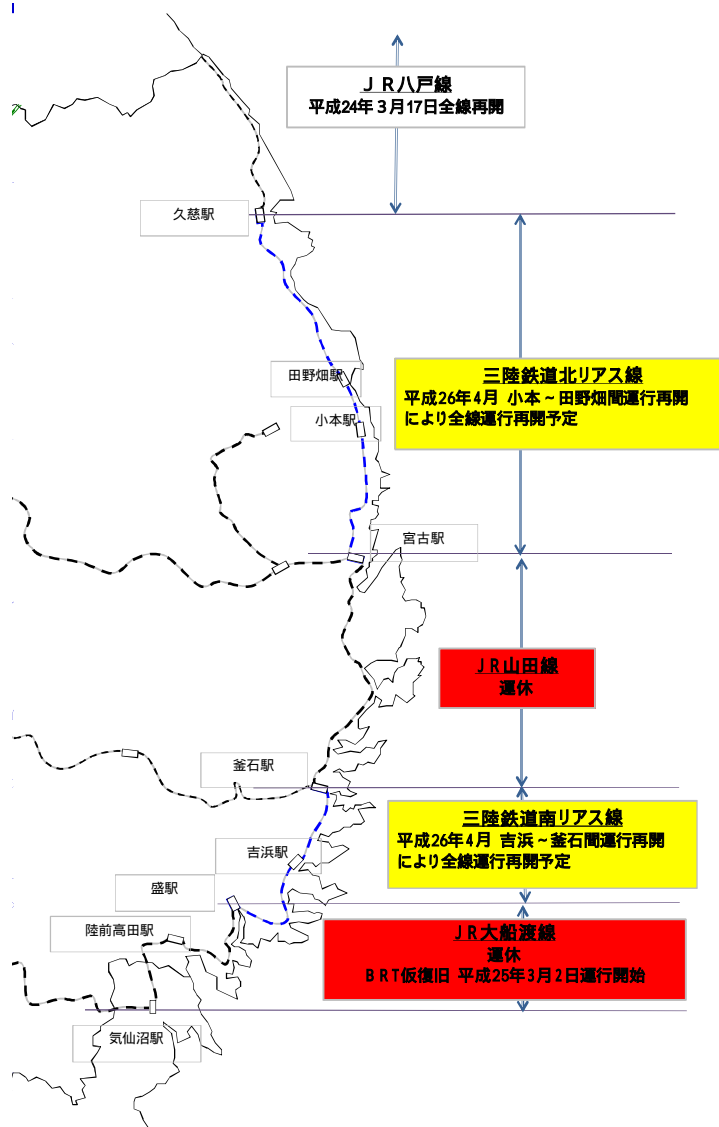
4 -(3) スポーツ施設整備に係る検討状況について

4-(4) J R 山田線の復旧について

J R 山田線復旧に係る取組状況について

- 岩手県沿岸における鉄道の被災状況
- 代替交通の確保
- 要望活動
- 各種会議等

岩手県沿岸における鉄道の被災状況

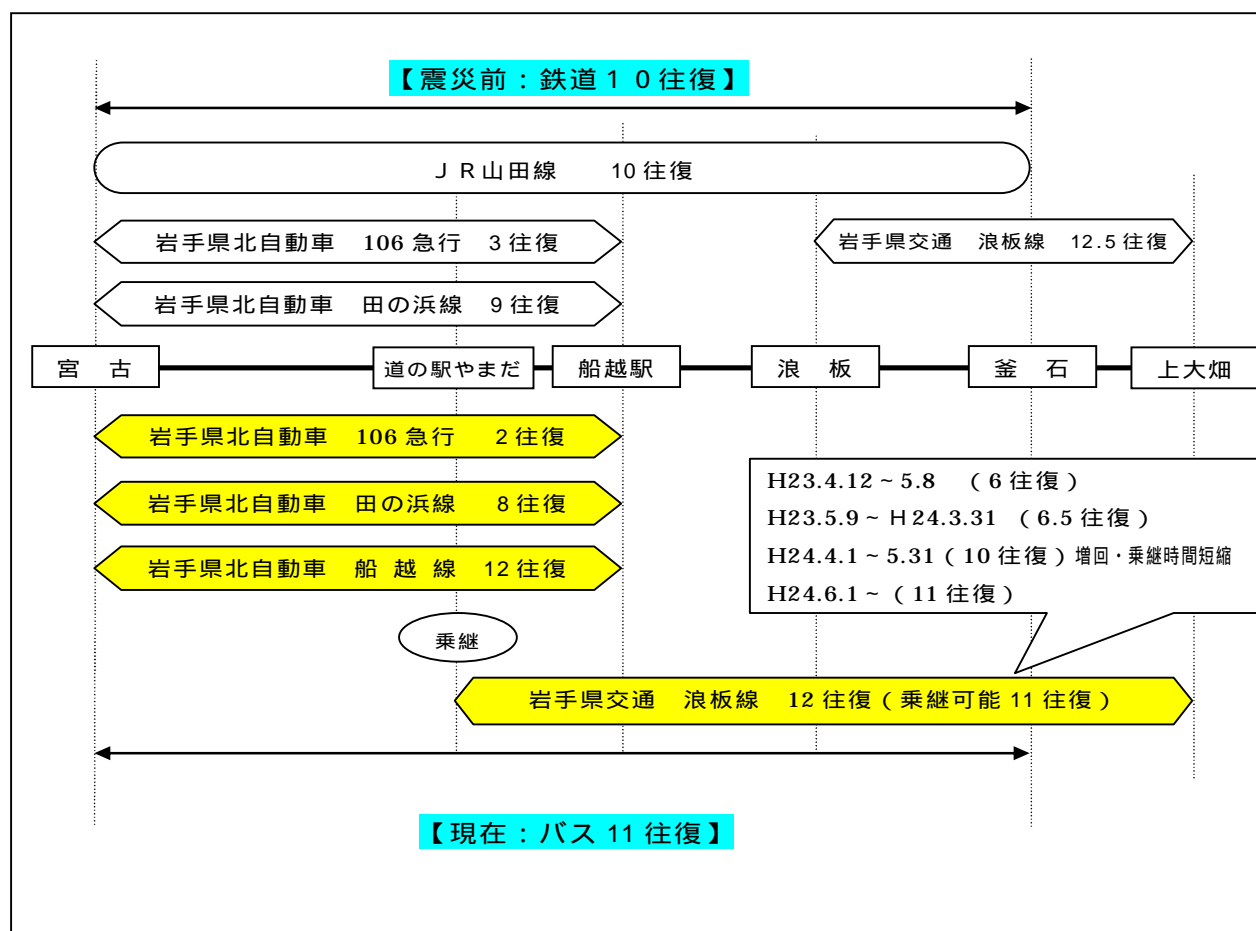


JR山田線被災状況(釜石～宮古)

駅舎流失	4駅 / 13駅 (31%)
浸水区間	21.7km / 55.4km (39%)
線路流失	6.3km / 55.4km (11%)
橋梁流失・埋没	6箇所
盛土流失	10箇所

代替交通の確保

宮古側(宮古駅前～船越駅前)は岩手県北自動車が22往復、釜石側(上大畑～道の駅やまだ)は岩手県交通が12往復運行。それぞれの区間をまたぐ利用者については「道の駅やまだ」又は「船越駅前」で乗継。(乗継可能なものは11往復)



要望活動

平成23年 9月 JR釜石要望(釜石市)、JR盛岡要望(釜石市、宮古市、山田町、大槌町)、
JR本社要望(釜石市、宮古市、山田町、大槌町)

平成24年 2月 国、JR本社要望(県 山田線・大船渡線・岩泉線沿線市町村)、
5月 JR盛岡要望(釜石市)

平成25年 2月 国、JR本社要望(県、山田線・大船渡線沿線市町)、
6月 国要望(釜石市、釜石市議会)、7月 国要望(釜石市、釜石市議会) 統一要望

国への主要要望内容(抜粋)

- 1 JR東日本が県及び市町のまちづくりと一体となった鉄道復旧を行うに際し、復興交付金など、国が支援すること。
- 2 議論を加速させ、東日本旅客鉄道株式会社に対し、鉄道による復旧を早期に決定するよう、必要な指導・助言等の措置を講じること。
- 3 東日本旅客鉄道株式会社に対し、被害の少なかった箇所から早期に整備を始め、直ちに運行を再開するよう、必要な指導・助言等の措置を講じること。

JRへの主要要望内容(抜粋)

- 1 県及び市町の意向を最大限尊重し、鉄道による復旧を直ちに決定すること。
- 2 市町の復興計画との整合性を図りながら、鉄道の早期復旧を行うこと。
- 3 被害の少なかった箇所から早期整備を行い、運行を再開すること。
- 4 鉄道復旧までの間の代替交通の確保を行うこと。

各種会議等

JR山田線公共交通確保会議(4市町首長、JR、岩手県ほか)

・第1回 平成24年6月25日開催

JR側から「山田線の復旧に関するJRの考え方」を示される。

その中で、「自治体の復興計画に対してJRとして検討すべき項目」及び「BRTによる仮復旧」の提案が出された。

・第2回 平成24年7月9日開催

JRに対して、「提案された内容を検討した結果、BRTによる仮復旧は、鉄道が復旧するまでの間の公共交通確保の手段として最善のものではないと判断すると回答。

JR山田線復興調整会議(東北運輸局、復興局、JR、三鉄、4市町、岩手県ほか)

第1回(平成23年6月16日)～第4回(平成24年11月7日)

JRから示された3つの課題の解決策を検討。

課題: 安全の確保、まちづくりとの整合性、掛かり増し経費の負担

第5回(平成25年3月8日)

概算工事費(原形復旧140億円、総事業費210億円)を示される。

第6回(平成25年9月25日)

BRTによる仮復旧の再提案に対し、沿線4市町の合意により拒否。

JR山田線利用促進検討会議(4市町、岩手県、東北運輸局ほか)

- ・平成25年2月19日に開催された首長会議において、JR山田線復旧後の利用促進について最大限の取組を行っていくことを合意、具体の取組を検討する。
- ・平成25年6月24日に開催された首長会議で中間報告、承認。
年度内の利用促進策確定を目指す。

「JR山田線の復旧を考える集い」の開催

- ・日時:平成24年10月29日(月) 18時～20時
- ・場所:釜石商工高等学校 4階「はまゆりホール」
- ・内容:講演、パネルディスカッション

シンポジウム「みんなで考えるJR山田線の復旧」の開催 予定

- ・日時:平成25年11月9日(土) 14時～16時
- ・場所:岩手県立大学宮古短期大学部「大講義室」
- ・内容:取組報告、講演、住民発表、決意宣言
- ・主催:釜石市、宮古市、山田町、大槌町

4 -(5) 五葉寮跡地の土地利用について

至 常楽寺

五葉寮跡地土地利用計画（案）

五葉寮跡地（市有地）
全体土地面積：約 7,600 m²
※法面含む

消防屯所

約 1,000 m²

南三陸国道事務所

約 3,500 m²

市道

至 寺前交差点

南三陸国道事務所立地のメリット

- ☞ 防災機材や人材により災害時の支援体制が図れる
- ☞ まち再生のきっかけとなる（100 人規模の職員が居住）

5 . 釜石片岸・鵜住居地区震災復興事業安全祈願祭について

6 . 質疑・意見交換
